

青森県の縄文早期住居跡集成

中村哲也・坂本真弓

1 はじめに

近年、縄文時代の定住を巡っての論議が多くなされている。縄文時代早期中葉の北海道函館市中野A・中野B遺跡で検出された大集落や縄文時代早期の鹿児島県国分市上野原遺跡で検出された集落跡などの発見例が、定住の論議に火をつけたといえよう。翻って、青森県内での状況を見ると、下田代納谷B遺跡、長七谷地貝塚での早期住居群を初見として以来、縄文時代早期の集落論に深い追究がなされていなかった。県内において該期の資料不足は否めないが、今回、初期定住を考える上で基礎資料として縄文時代早期の住居集成を試みた。(1、3 IV~VIIを坂本、それ以外を中村が執筆)

2 時期区分、分類

時期区分 時期は、既に認知されている、又は提唱されている型式をもとに以下のように区分した。

I期 日計式	V期 吹切沢式・鳥木沢式・螢沢A 2式
II期 白浜式・小舟渡平式	VI期 ムシリ I式・売場VII群
III期 根井沼式・寺ノ沢式	VII期 赤御堂式・表館VI群
IV期 物見台式	VIII期 早稻田V類・表館IX群

上述のVIII期以降は前期初頭として取り扱うこととした。住居の時期が単一時期に限定できない場合、(例えば”IV~V期”)は最も新しい期に含めて考えることとした。対象としたのは、青森県内の住居跡である。住居跡は縄文時代早期～前期初頭までを対象とし、類例のない場合は、他地域のものを示した場合がある。

集成した住居跡は、前期初頭の長七谷地III群のものも含めて142棟である。前葉・中葉・後葉・末葉の区分では前葉3、中葉59、後葉～末葉63、前期初頭13、時期不明5である。

分類 集成した住居の属性は表に示す。平面形は報告書の記載ではなく、筆者らの判断によった。炉の分類のうち、灰床炉は、基本的に今村啓爾氏の定義(今村1985)によるが、住居跡中央付近に浅めのピットがある場合、灰床炉の可能性のあるものとして扱った。柱穴配置の分類は、本来上屋構造の復元に帰着することが望ましい。そこで、上屋構造が異なるであろうことを意識しつつ、柱穴の規模・配置により分類を行った。その分類は以下の通りである。なお、柱穴の規模は深さ30cm内外かそれ以上を大規模、20cm内外～10cm程度を中規模、10cm内外からそれ以下を小規模とした。

1類 柱穴をもたないもの

2類 a 規模の小さな柱穴が壁際にめぐるもの。

b 規模の小さな柱穴が壁際にめぐり、同程度の規模の柱穴が1～数個床面中央付近にあるもの。

c 規模の小さな柱穴が床面に1～数基あるもの。

3類 a 床面に中程度の規模の柱穴が3～数基存在するもの。

1 壁際に小規模な柱穴を有するもの。 2 壁際に小規模な柱穴を有さないもの。

b 床面に中程度の規模の柱穴が多数あるもの。

1 壁際に小規模な柱穴を有するもの。 2 壁際に小規模な柱穴を有さないもの。

c 中程度の規模の柱穴が床面・壁際に多数あるもの。

d 中程度の規模の柱穴が竪穴外または、竪穴壁際にあるもの。

- 4類 床面に柱穴が一直線に並ぶもの
- a 柱穴の規模が大きいもの
- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 壁際に柱穴がめぐるもの | 2 壁際に柱穴がめぐらないもの |
|---------------|-----------------|
- b 柱穴の規模が中程度のもの。
- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 壁際に柱穴がめぐるもの | 2 壁際に柱穴がめぐらないもの |
|---------------|-----------------|
- 5類 規模の大きな柱穴が方形に配されるもの。4基を基本とするが、中間に1～数基の柱穴が配されるものも含む。
- 6類 規模の大きな柱穴が3列、方形に並ぶもの。
- 7類 規模の大きな柱穴が5基以上、多角形に配置されるもの。
- 8類 規模の大きな柱穴が床面に多数配されるが明確なパターンを抽出できないもの。
- 9類 全形が不明のため、柱穴配置を明らかにできないもの。

3 各時期の概要

I期 3棟検出されている。規模は3m台が2棟、5m台が2棟である。柱穴配置はいずれも2類である。平面形は円形基調と方形基調の両者が認められる。炉は認められない。

II期 29棟検出されている。柱穴配置による分類では1類2棟、2類16棟、(うち、2a類8棟、2b類6棟、2c類1棟)、3a2類1棟、4類6棟、9類3棟である。平面形は円形基調のものと方形基調のもの両者がある。規模は3m台～9m台まで連続し、13m台のものが1棟ある。住居の規模と柱穴配置には相関があると思われ、2類は3～6m台のものがほとんどであるのに対し、4類は5m以上のものがほとんどで、最大のものは13m台である。これは上屋構造の違い(具体的には棟木を持つか、棟木を持たない円錐形または方錐形の伏屋となるか)に起因するものと考えられよう。炉は1棟(幸畠(1)SI05:地床炉)を除けば検出例がない。また、屋外の焼土検出例も見当たらない。

集落構成の視点から見た場合、一集落が同一類型の住居のみで構成される集落(上尾駒(2)、幸畠(1)、表館(1)V)と、複数類型の住居跡で構成される集落(中野平)がある。住居跡間の距離・棟数は、複数棟が20m程度の距離をもって散在する例(西張(2))と、複数棟が近接し重複する例(中野平)がある。前者は2類単独で構成され、後者は2類と4類で構成される。前述のように2類と4類は規模が異なるものと考えられる。住居の規模が居住人数を、重複が居住期間の長さを反映するすれば、後者は拠点的な集落としてとらえることが可能であろう。2棟程度が近接して認められる例(上尾駒(2)、幸畠(1)、表館(1)V)もあるが、他遺跡では20m程度の距離を持って散在する例(西張(2))があり、調査区外に同時期の住居が存在する可能性を否定できない。また一方で、複数棟が散在する場合、全てが同時に存在したかどうか明らかにできない。2棟程度の集落が重複した姿である可能性も否定できないのである。いずれにしても、拠点的な集落とそうでない集落が認められることは確かであろう。とすれば、拠点的な集落とそうでない集落の関係を如何にとらえるかが問題となる。具体的には、両者とも通年の居住が行われ、集落間で情報や物資の交換が行われたと解釈するのか、拠点的でない集落は季節的な居住が行われ、拠点的集落からの出小屋的な存在と解釈するのかである。この問題を解決するには、集落構造の分析とともに、動・植物遺体の分析や石器の組成、周辺の環境といった生業・環境に関する分析がのぞまれる。

III期 1棟のみ検出されている。全形が分からぬいため、規模・柱穴配置は不明である。III期の住居跡は、岩手県北部で数棟の確認例がある。二戸市長瀬B遺跡では3棟、小井田Ⅲ遺跡では2棟が確認されている。小井田Ⅲ遺跡では柱穴配置1類と5類、長瀬B遺跡では柱穴配置1類、5類、7類により

構成される。長瀬B遺跡SI02は梁・桁をもつ上屋構造が推定されている（宮本1996）。青森県下では、現在の資料では、このような例は早期後葉に出現する。これを地域差としてとらえるか、資料の絶対数の不足による見かけ上の差と考えるかは、今後の資料に待ちたい。

炉は、小井田Ⅲ遺跡2号住居跡で炭分が検出された例があるが、明瞭なものは認められない。

IV期 6軒検出されている。平面形態では、方形基調4軒（隅丸長方形3軒、隅丸方形1軒）、円形基調2軒（楕円形1軒、円形1軒）である。

柱穴配置による分類では、1類1軒、2類3軒（内、2a類2軒、2b1類1軒）3類2軒（3a2類1軒、3c類1軒）である。住居復元を試みた宮本氏によると、3つの柱穴配置は、柱を斜めに組んだ三脚の構造の可能性が高い。表館（1）遺跡V S I 0 4は、この上屋構造を持つ可能性もある。

規模は、長軸または1辺が3m台のものが2軒、5m台のものが2軒、6m台のものが1軒である。「灰床炉」と考えられる50cmから1.5mの規模を持つ円形のピットが検出されている。

V期 4軒検出されている。平面形態は方形基調3軒（隅丸方形3軒）円形基調1軒（不整円形1軒）である。柱穴配置による分類では、1類1軒、2類1軒、3類2軒（3b2類）であり、様々である。規模は、長軸または1辺が5m台のものが3軒である。IV期に比べるとやや大型化する。また、下田代納屋遺跡の3軒の住居跡周辺では4基の屋外炉が検出されている。この遺跡が一時期のみの集落であったことを考えると、該期の屋外炉であったと推定されるが断定はできない。このほかに3軒の住居中央に「灰床炉」と考えられる方形ピットが検出されている。屋外炉・灰床炉が同時に機能していた可能性が高い。

IV期からV期にかけての住居は岩手県北部の岩手県馬立I遺跡で13軒の確認例がある。柱穴配列は1類、2類、3類で構成される。規模は3m台が多く、5m台もみられる。また、ほとんどの住居が内部に地床炉を持つ。青森県下で「灰床炉」に変わって地床炉が大部分を占めるのは早期後葉であり、時期が他地域と若干開きがある。

VI期 15軒検出されている。平面形態は円形基調12軒（楕円形5軒、円形7軒）、方形基調3軒（隅丸方形3軒）である。平面形態が方形から円形へと変化する。柱穴配列による分類は1類5軒、2類6軒（2a類4軒、2b類2軒）、3類1軒（3a1類）、8類1軒である。

規模は、長軸または1辺が2m台のものが5軒、3m～5m台のものが9軒、6m台のものが1軒である。炉形態は地床炉を持つもの4軒、灰床炉を持つものが1軒である。V期に比べて地床炉の割合が灰床炉の割合よりも高い。

VII期 30軒検出されている。平面形態は円形基調23軒（楕円形18軒、円形5軒）、方形基調6軒（方形3軒、長方形2軒、隅丸長方形1軒）である。ほとんどが円形基調の住居跡である。

柱穴配置による分類は1類4軒、2類3軒（2a類2軒、2b類1軒）、3類9軒（3a1類3軒、3a2類1軒、3b2類4軒、3c類1軒）、4類3軒（4a2類1軒、4b2類1軒）、5類2軒、7類2軒、8類2軒、9類4軒である。規模は、長軸または1辺が7m以上ものが10軒で、10mを越えるものもある。7m未満のものは19軒である。この時期になると、梁と桁を渡す上屋構造を持つ5類が出現し、住居の規模も7m以上の住居の大型の住居とそれ以外の住居に分かれるようである。この時期が住居形態変化の一画期といえよう。

VIII期 27棟検出されている。柱穴配置による内訳は1類7棟、2a類6棟、3a類3棟（3a1類2棟、3a2類1棟）、4類1棟、5類6棟、7類2棟、8類1棟、9類4棟である。住居の規模と柱穴配置の組合せは、2・3類のほとんどが5m台であり、5～8類が6m台以上である。このことから上屋構造と規模の相関がうかが

える。平面形は円形基調・方形基調ともに認められる。明瞭な地床炉を持つ例は3例ある。また、灰床炉を持つものが1棟ある。住居の規模と炉の有無に相関は認め難い。

前期初頭 2a類1棟、3類3棟（3a2類1棟、3b1類1棟、3c類1棟）、4類1棟、6類1棟、7類2棟、9類5棟である。平面形は方形基調、円形基調のものに認められ、明瞭な炉を有する例は検出されていない。

4まとめ

住居の規模は、遅くともⅡ期には一般的な住宅とくらべて飛び抜けて大きいものが出現し、複数の柱穴配置のものが見られるようになる。Ⅰ期の住居は現在検出例が少ないため、大型の住居が存在するか否か不明だが、大型住居の萌芽はⅠ期に認められる可能性もある。ⅥないしⅦ期には梁と桁を渡す上屋構造を持つと考えられるもの（柱穴配置5～8類）が出現する。柱穴配置において、新たなタイプが古いタイプを駆逐するという現象は見られない。新出のタイプをつけ加えながら、複数のタイプが集落を構成するようだ。複数タイプの同時併存という現象は、タイプ毎に機能あるいは文化的コンテキストが異なることを意味しよう。

炉はⅠ～Ⅲ期には明瞭な検出例はほとんどない。また、屋外の焼土検出例も知られていない。一方、焼礫の記述がある例がある。Ⅳ期には灰床炉が出現し、Ⅵ期以降地床炉が増加するようである。Ⅶ期には屋内炉の検出例は減少する。一方、ファイア・ピットなどと称されるもので、時期が限定できるものはⅦ期を中心とし、屋内炉の現象と関連する可能性がある。また、屋外焼土は時期を特定できるものはないが、早期後半からの遺跡に多いようだ。

引用・参考文献

（表の「文献番号」に対応する。）

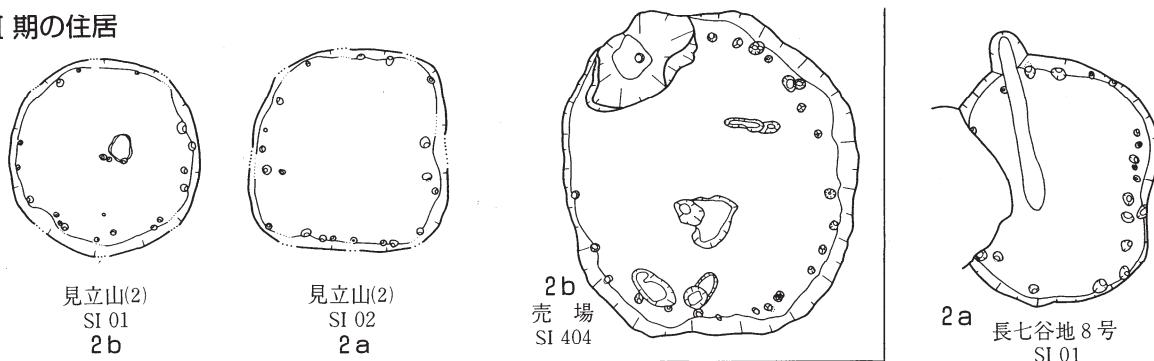
- 1 青森県教育委員会 1994 家ノ前遺跡Ⅱ・鷹架遺跡Ⅱ発掘調査報告書
- 2 青森県教育委員会 1980 桔梗野工業団地造成に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
- 3 八戸市教育委員会 1990 見立山(2)遺跡
- 4 青森県教育委員会 1998 幸畑(1)・(5)遺跡
- 5 三沢市教育委員会 1987 根井沼(1)遺跡発掘調査報告書Ⅲ
- 6 八戸市教育委員会 1983 史跡根城跡発掘調査報告書Ⅳ
- 7 八戸市教育委員会 1983 史跡根城跡発掘調査報告書Ⅴ
- 8 青森県郷土館 1976 小田野沢 下田代納屋B遺跡発掘調査報告書
- 9 青森県教育委員会 1987 上尾駿(2)遺跡Ⅱ
- 10 青森県教育委員会 1981 新納屋遺跡(2)発掘調査報告書
- 11 青森県教育委員会 1998 西張(2)遺跡
- 12 八戸市教育委員会 1989 赤御堂遺跡
- 13 八戸市教育委員会 1986 丹後谷地遺跡発掘調査報告書
- 14 青森県教育委員会 1991 中野平遺跡
- 15 八戸市教育委員会 1982 長七谷地遺跡発掘調査報告書 長七谷地2・7・8号遺跡
- 16 青森県教育委員会 1985 長七谷地貝塚遺跡発掘調査報告書
- 17 青森県教育委員会 1985 壳場遺跡発掘調査報告書
- 18 青森県教育委員会 1989 表館(1)遺跡Ⅲ
- 19 青森県教育委員会 1990 表館(1)遺跡Ⅳ・発茶沢(1)遺跡Ⅴ発掘調査報告書
- 20 青森県教育委員会 1990 表館(1)遺跡Ⅴ
- 21 青森県教育委員会 1991 弥栄平(6)・弥栄平(7)・弥栄平(8)遺跡
- 22 青森県教育委員会 1984 和野前山遺跡発掘調査報告書
- 23 宮本長二郎 1996 『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版
- 24 今村啓爾 1985 「縄文早期の竪穴住居址にみられる方形の掘り込みについて」『古代』第80号
- 25 岩手県埋蔵文化財調査センター 1985 『小井田Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
- 26 岩手県埋蔵文化財調査センター 1982 『二戸市長瀬B遺跡』
- 27 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『馬立Ⅰ・太田遺跡発掘調査報告書』

表 青森県内縄文早期住居跡一覧表

番号	遺構名	分類	時期分類	平面形態	規模(m)	床面積(m ²)	炉	備考	文献番号
1	長七谷地8号SI05A	8		楕円形	7.2×5.7				15
2	長七谷地8号SI05C	8		楕円形?	4.6×-				15
3	長七谷地8号SI05D	8			6.3×-				15
4	壳場SI204	1	≤VI	不整円形	4.2×3.6		無		17
5	表館(1)Ⅲ SI116	1	≤VI	隅丸方形	4.0×3.1		無		18
6	壳場SI209	2a	≤VI	楕円形	2.4×2.1		無		17
7	壳場SI208	3a1	≤VI	円形	3.0×-		無		17
8	赤御堂SI12	8	≤VI	隅丸方形	6.65×-		無		12
9	長七谷地2号SI04	3b2	≤VII	楕円形	6.18×5		地床炉		15
10	長七谷地2号SI05	3b2	≤VII	楕円形	6.2×4.8	20.56	地床炉	地床炉2	15
11	長七谷地2号SI06	4b2	≤VII	楕円形	3.9×2.6	7.69	地床炉		15
12	長七谷地2号SI02	9	≤IV	楕円形	8.9×?		無		15
13	壳場SI311	2a	≤VIII	隅丸方形	(4.15)×(3.90)		無		17
14	壳場SI207	2b	≤VIII	隅丸長方形	3.5×2.6		無		17
15	長七谷地(1次) SI04	2a	≤前期初頭	楕円形	4.4×3.6	10.2			16
16	長七谷地(2次) SI05	3c	≤前期初頭	楕円形	5.36×4.58	14.76	無		16
17	長七谷地(1次) SI05	5	≤前期初頭	円形	4.8				16
18	長七谷地(1次) SI01	7	≤前期初頭	隅丸長方形	9×7.2	30.7			16
19	長七谷地(1次) SI02	7	≤前期初頭	方形	4.2		無		16
20	長七谷地(1次) SI06	7	≤前期初頭	円形	5.2×4.4		無		16
21	長七谷地(1次) SI03	9	≤前期初頭	?	?				16
22	壳場SI08	9	≤前期初頭	不明	-				17
23	見立山(2)SI02	2a	I	隅丸方形	3.22×3.15		無		3
24	壳場SI404	2b	I	楕円形	5.30×4.70		無		17
25	見立山(2)SI01	2b	I	円形	3.15×3.05		無		3
26	中野平SI110	1	II	隅丸長方形	6.9×4.8	28.1	無		14
27	上尾駿(2)Ⅱ CJ-65	1	II	楕円形	6.2×4.5		無		9
28	長七谷地8号SI01	2a	II	楕円形	4.05×3.25	18.8	無		15
29	中野平SI108	2a	II	隅丸方形	3.0×2.2	5.08	無		14
30	表館(1) V SI06	2a	II	隅丸長方形?	4.32×3.20	9.92	無		20
31	西張(2)SI01	2a	II	隅丸方形	3.34×3.50	6.3	無		11
32	西張(2)SI02	2a	II	楕円形	3.86×3.26	8.3	無		11
33	西張(2)SI03	2a	II	楕円形	(4.90)×(4.54)	10.8	無		11
34	西張(2)SI05	2a	II	楕円形	3.30×2.07	4.7	無		11
35	西張(2)SI07	2a	II	隅丸方形	5.2	13.1	無		11
36	表館(1) V SI05	2a	II	隅丸長方形?	4.90×4.30	18.35	無		20
37	中野平SI112	2b	II	隅丸長方形	4.0×2.2	7.15	無		14
38	幸畠(1) SI04	2b	II	楕円形	4.1×2.5		無		4
39	幸畠(1) SI05	2b	II	隅丸方形	3.62×2.72		地床炉		4
40	西張(2)SI06	2b	II	長方形+半円形	6.64×6.3	23.3	無		11
41	中野平SI107	2c	II	不整円形	4.2×4.0	11.98	無		14
42	根城跡SI53	3a2	II	楕円形?	5.45×-		無		6
43	中野平SI102	4a1	II	楕円形	8.5×5.5	36.49	無		14
44	中野平SI104	4a1	II	隅丸長方形	5.4×4.4	18.64	無	短軸上2本	14
45	中野平SI101	4a2	II	方形	5.90×4.10	22.44	無		14
46	中野平SI103B	4a2	II	隅丸長方形	4.7×3.8	19.1	無		14
47	中野平SI106	4a2	II	不整方形	6.1×5.0	22.47	無		14
48	中野平SI105	4a2	II	隅丸長方形	13.50×4.5	48.09	無		14
49	中野平SI103A	9	II	隅丸長方形	7.5×4.0		無		14
50	中野平SI109	9	II	不明	9.0×-				14
51	根井沼(1) SI01	9	II	不明					5
52	上尾駿(2)(3)CJ-66	1	早期中葉	楕円形?	6.0×5.0	17	無	Ⅱ期の可能性	9
53	根城跡SI54	2?	早期中葉	隅丸方形	7.76×-				6
54	壳場SI315	2a	早期中葉	不整隅丸方形	3.82×3.34		無		17
55	根城跡SI67	2b	早期中葉	隅丸方形	3.84×2.90		無		7
56	新納屋(2)SI02	3a2	早期中葉	楕円形	4.5×3.5	11.5	無	楕円形ピット	10
57	根城跡SI66	3b1?	早期中葉	隅丸方形	6.23×-		無		7
58	丹後谷地SI43	3b2	早期中葉	楕円形	3.85×3.0		無		13
59	長七谷地1号(試掘)	3b2	早期中葉	楕円形	5×2.75		灰床炉		2
60	赤御堂SI07	3a2	早期中~後葉	隅丸方形	4.6×4.0		地床炉		12
61	根井沼(1) SI02	9	III	不整円形?	2.27×-				5
62	弥栄平(7) SI01	1	IV	隅丸長方形	5.33×4.50		灰床炉	溝状の施設	21
63	表館(1) V SI02	2a	IV	隅丸長方形	5.90×4.40	20.6	灰床炉	テラス	20
64	鷹架遺跡H 5 試掘SI01	2a	IV	円形	3.84×3.69		灰床炉		1
65	表館(1) V SI01	2b1	IV	隅丸長方形	3.32×2.82	7.35	無		20
66	表館(1) V SI04	3a2	IV	楕円形	6.0×4.64	18.35	灰床炉		20
67	壳場SI202	3c	IV	隅丸方形?	-		無		17
68	下田代納屋BSI02	1	V	隅丸方形	5.65×5.20		灰床炉		8
69	下田代納屋BSI03B	2b	V	隅丸方形	5.8×5.1		灰床炉		8
70	下田代納屋BSI01	3b2	V	隅丸方形	5.7×5.0		灰床炉		8

番号	遺構名	分類	時期分類	平面形態	規模(m)	床面積(m ²)	炉	備考	文献番号
71	新納屋(2)SI03	3b2	V	不整円形	不明		地床炉		10
72	壳場SI201	1	VI	楕円形	5.1×4.2		無		17
73	壳場SI307B	1	VI	円形?	4.5		無		17
74	表館(1)ⅢSI102	1	VI	楕円形	2.75×2.5		地床炉		18
75	壳場SI310	2a	VI	円形?	5.80×5.20		無		17
76	壳場SI312	2a	VI	円形?	(5.20)		灰床炉		17
77	壳場SI316	2a	VI	隅丸方形	2.70×2.80		無		17
78	壳場SI203	2b	VI	円形	4.2		無		17
79	壳場SI206	2b	VI	円形	3.6×-		無		17
80	壳場SI15	9	VI	不整楕円形	2.6×2.0		地床炉		17
81	赤御堂SI13	9	VI～VII	隅丸方形	5×-		無		12
82	表館(1)ⅢSI103	3d	VII	楕円形	2.5×1.5		地床炉	地床炉2	18
83	表館(1)ⅣSI302	5	VII	長方形?	9.96×4.38	33.08	地床炉	地床炉2	19
84	表館(1)ⅢSI106	1	VII	楕円形	3.18×2.91		地床炉		18
85	表館(1)ⅢSI115	1	VII	楕円形	3.3×2.5	5.82	地床炉		18
86	表館(1)ⅢSI117	1	VII	長方形	3.5×2.4	6.03	無		18
87	表館(1)ⅢSI301	1	VII	隅丸方形	7.5×8.0	50.71	地床炉	地床炉4	18
88	長七谷地2号SI03	2a	VII	楕円形	3.8×3.2	10.1	無		15
89	壳場SI313	2a	VII	不整円形	5.20×4.70		無		17
90	壳場SI11	2b	VII	円形	3.7×-		無		17
91	長七谷地2号SI08	3a1	VII	不整円形	4.4×3.9	13.49	地床炉		15
92	長七谷地2号SI11	3a1	VII	楕円形	3.2~3.3		無		15
93	表館(1)ⅢSI119	3a1	VII	楕円形	4.2×3.3	11.8	地床炉	地床炉2	18
94	長七谷地2号SI10	3a2	VII	不整楕円形	6.70×4.40	11.38	地床炉	地床炉2	15
95	長七谷地2号SI07	3b2	VII	不整楕円形	4.6×3.7	12.66	地床炉		15
96	表館(1)ⅢSI101	3b2	VII	不整円形	4		地床炉		18
97	壳場SI04	3c	VII	楕円形	7.0×5.0				17
98	表館(1)ⅣSI303	4	VII	隅丸長方形	7.8×5.14	34.25	地床炉		19
99	長七谷地2号SI09	4a2	VII	楕円形	7.7×3.6		地床炉	地床炉2	15
100	長七谷地2号SI13	5	VII	不整楕円形	7.1×4.5	23.61	無	張出部	15
101	表館(1)ⅢSI118	5	VII	隅丸方形	3.52×3.30	9.4	無		18
102	長七谷地2号SI12	7	VII	楕円形	10.4×8.3	61.07	地床炉	地床炉3	15
103	表館(1)ⅢSI113	7	VII	楕円形	3.7×2.8			特殊施設	18
104	長七谷地2号SI01	8	VII	円形	7.4×6.9	36.56	無		15
105	長七谷地2号SI14	8	VII	楕円形	10.7×8.2		無		15
106	壳場SI10	9	VII	円形	4.2×4.0				17
107	壳場SI13	9	VII	楕円形	2.7×-				17
108	赤御堂SI09	9	VII～VIII	隅丸方形	-×3.8				12
109	長七谷地8号SI03	2a	VIII	不整円形	3×-		地床炉		15
110	壳場SI307A	1	VIII	円形?	4.3		無		17
111	和野前山SI07	1	VIII	不整円形	3.5		無		22
112	表館(1)ⅢSI112	1	VIII	楕円形	3.0×2.55		無		18
113	表館(1)ⅢSI111	1	VIII	不整円形	3.5×2.9		無		18
114	表館(1)ⅢSI123	1	VIII	隅丸方形	2.30×2.0		無		18
115	表館(1)ⅢSI109	1	VIII	不整円形	4.2×-		地床炉		18
116	長七谷地8号SI04	2a	VIII	隅丸方形	4.4×4		無		15
117	壳場SI309	2a	VIII	不整円形	2.84×2.32		無		17
118	壳場SI314	2a	VIII	隅丸方形	(6.0)×4.85		無		17
119	長七谷地8号SI02	3a1	VIII	不整円形	5.4×4.95	18.8	無		15
120	表館(1)ⅢSI110	3a1	VIII	不整円形	3.9×3.4		無		18
121	壳場SI317	3a2	VIII	楕円形	2.90×2.60		無		17
122	和野前山SI05	4b2	VIII	楕円形	7.0×5.70		無		22
123	長七谷地(2次)SI02・03	5	VIII	不整円形	6.2×5.6		無	SI03と同一の住居	15
124	和野前山SI08	5	VIII	隅丸方形	6.7×5.4		灰床炉	テラス	22
125	新納屋(2)SI01	5	VIII	隅丸方形	4.5×4.3	15.2	無		10
126	表館(1)ⅢSI108	7	VIII	隅丸長方形	9.7×7.4		無		22
127	長七谷地8号SI05B	8	VIII	楕円形	11.7×7.3				18
128	壳場SI308	9	VIII	楕円形	11×7.60				17
129	和野前山SI06	9	VIII	円形?	3.6				22
130	表館(1)ⅢSI107	9	VIII	楕円形?	5.7×-				18
131	表館(1)ⅢSI121	9	VIII	長円形?	(7.0)×(3.0)		地床炉	地床炉2	18
132	和野前山SI09	5	VIII?	隅丸方形	6.80×7.30		無		22
133	壳場SI06	9	VIII～前期初	不整円形	3.6×3.6				17
134	長七谷地(2次)SI01	3a2	VIII～前期初頭	楕円形	3.32×2.68		無		16
135	長七谷地(2次)SI04	4b1	VIII～長七谷地Ⅲ群	不整円形	6.94×5.2		無		16
136	壳場SI205	6	VIII～長七谷地Ⅲ群	隅丸長方形	8.5×5.6		無		17
137	長七谷地(2次)SI07	3b1	早期	円形	4.8×4.32				16
138	長七谷地7号堅穴状遺構	3b2	早期	楕円形	3.15×2.02		無		15
139	長七谷地(2次)SI06	3b1	早期末～前期初頭	楕円形	4.88×4.32				16
140	壳場SI03	2a	長七谷地Ⅲ群	不整形	6.0×4.5		無		17
141	壳場SI05	9	長七谷地Ⅲ群	楕円形	5×4		無		17
142	壳場SI09	9	長七谷地Ⅲ群	不明					17

I期の住居



II・III期の住居

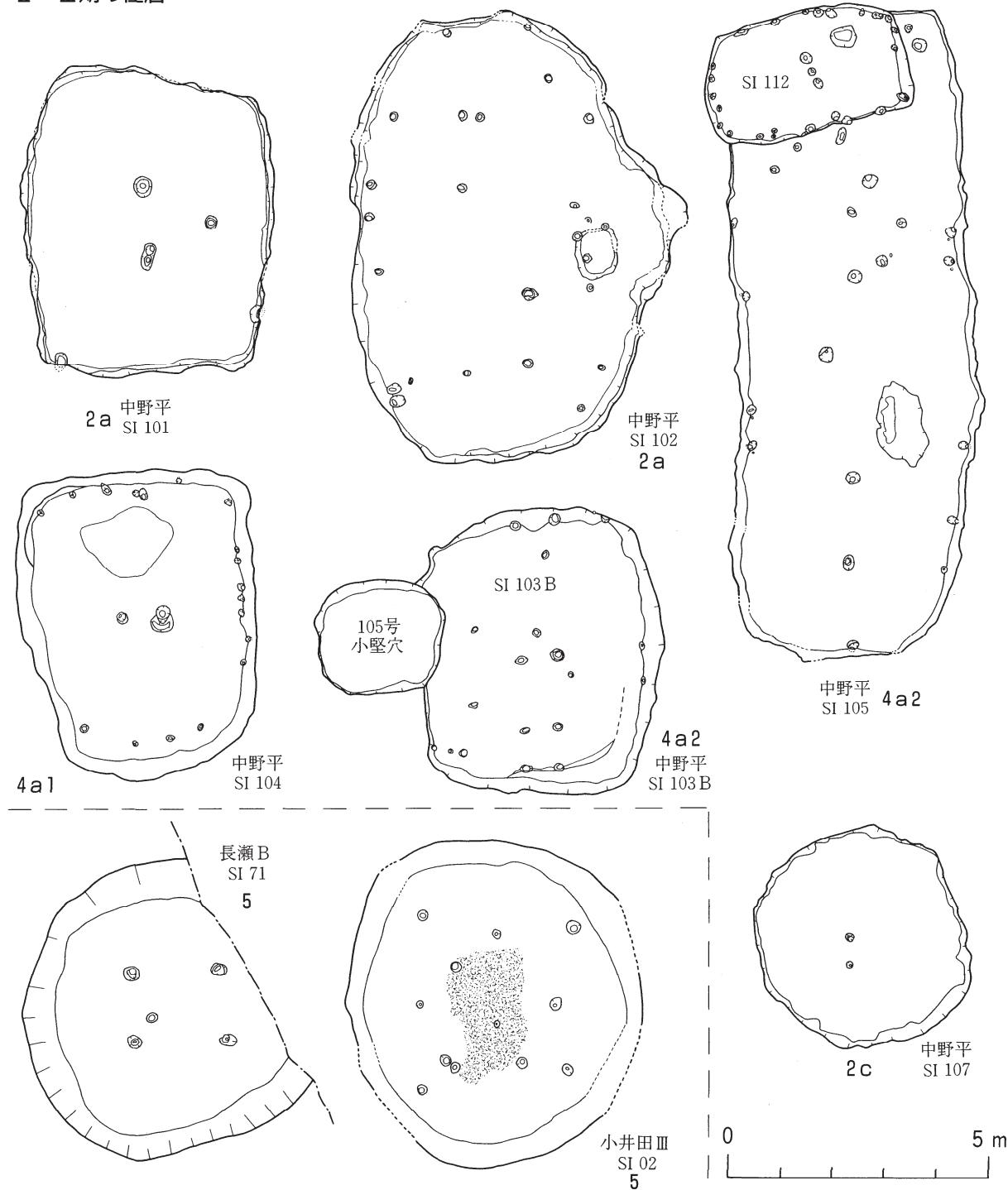
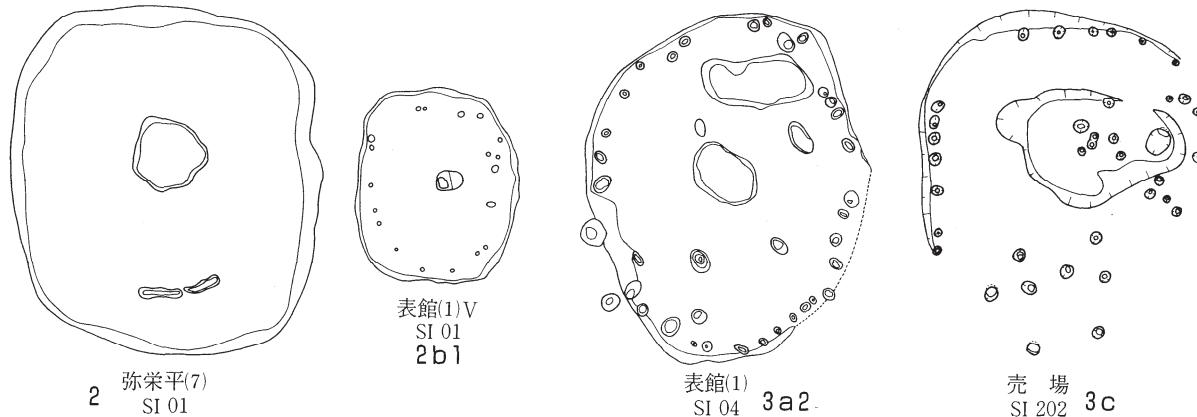
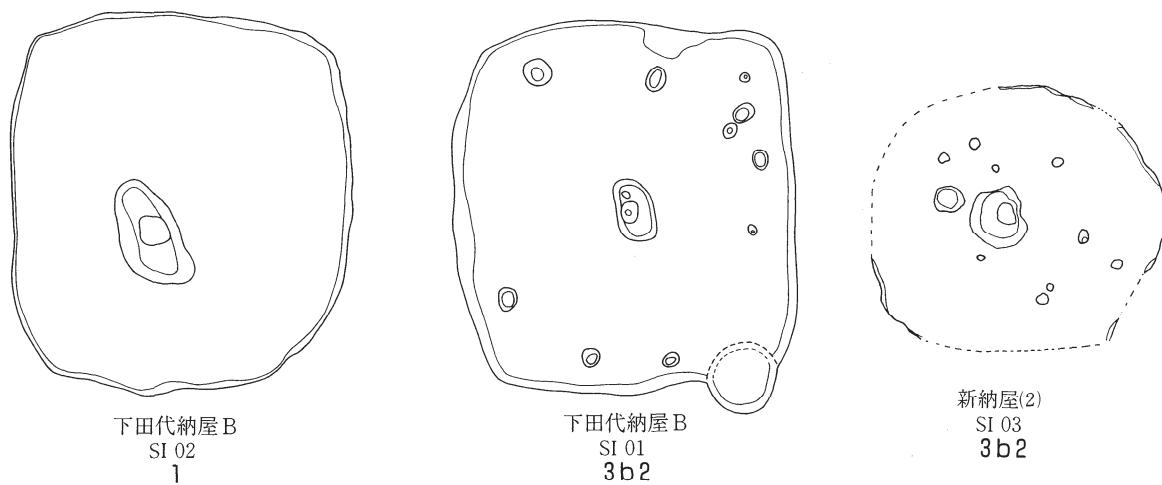


図2 I～III期の住居跡

IV期の住居



V期の住居



VI期の住居

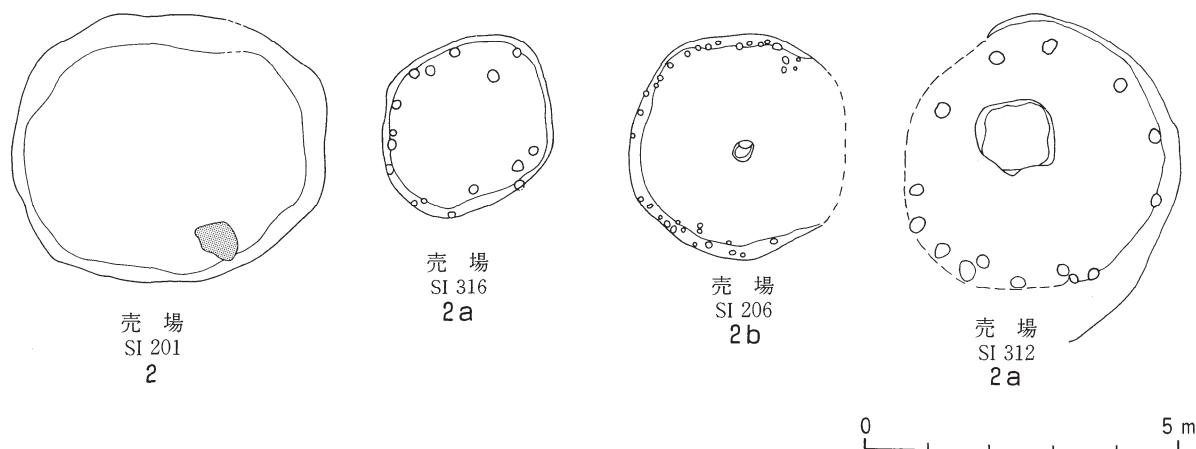


図3 IV～VI期の住居

VII期の住居

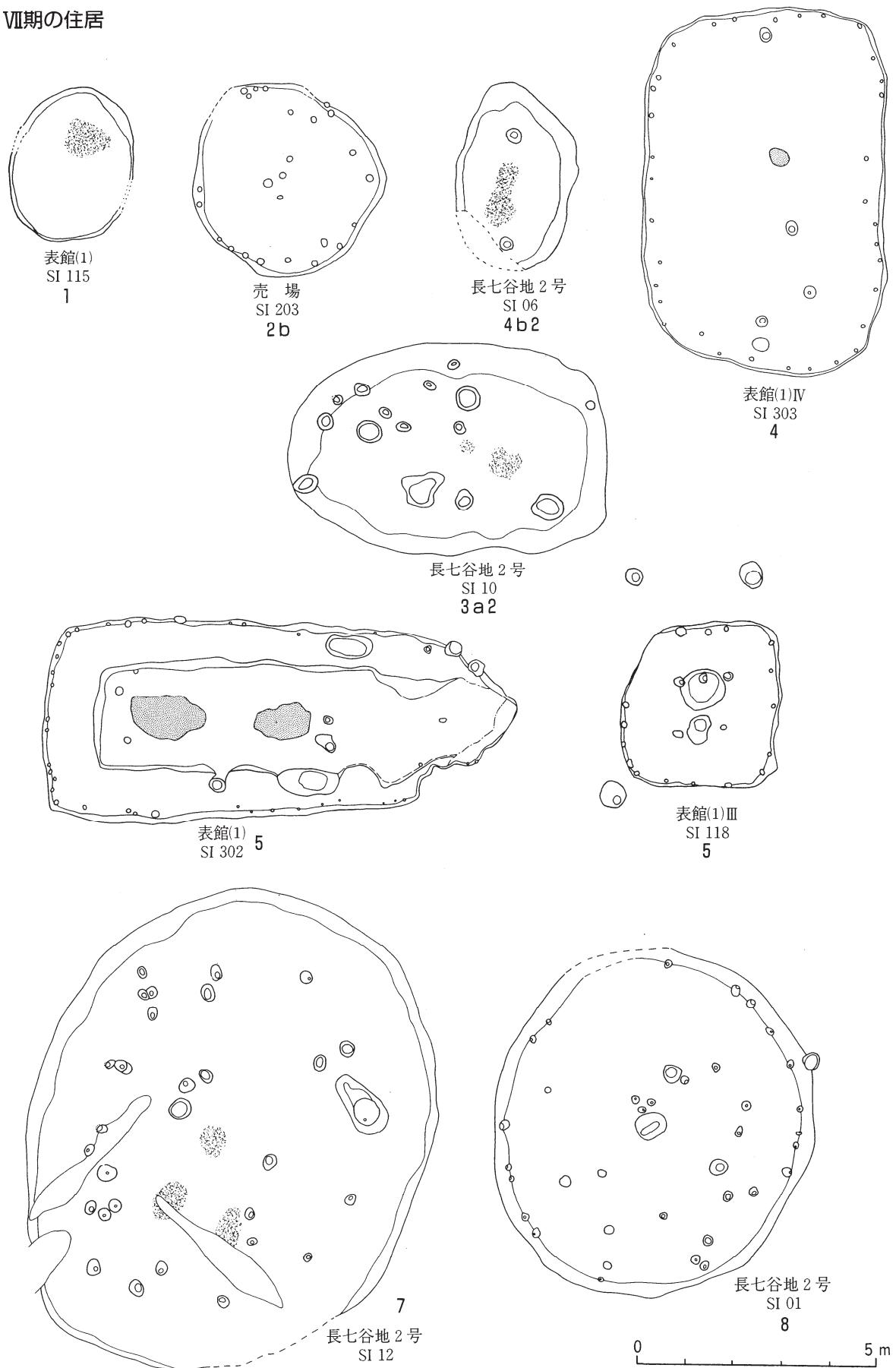


図4 VII期の住居

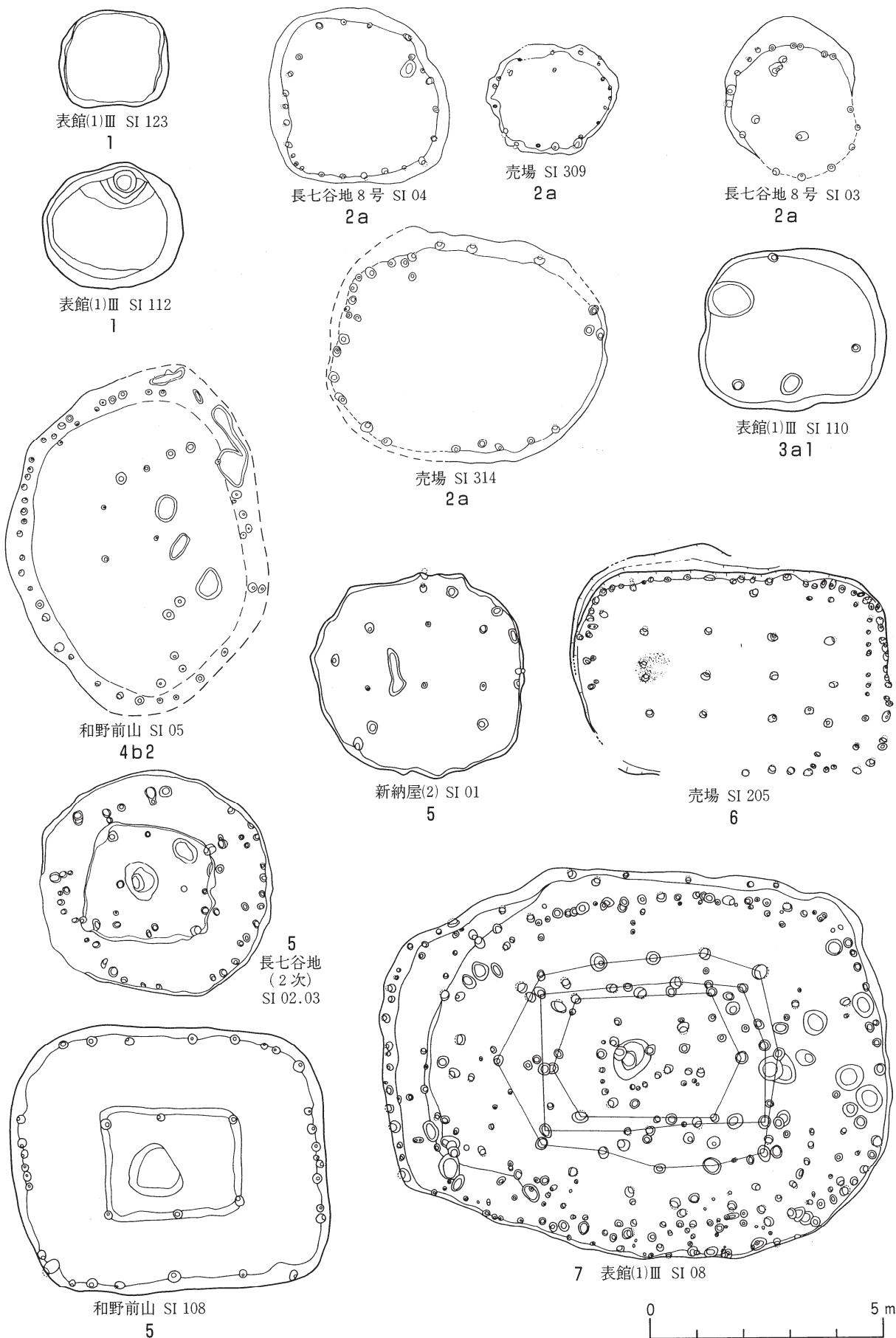


図5 VIII期の住居

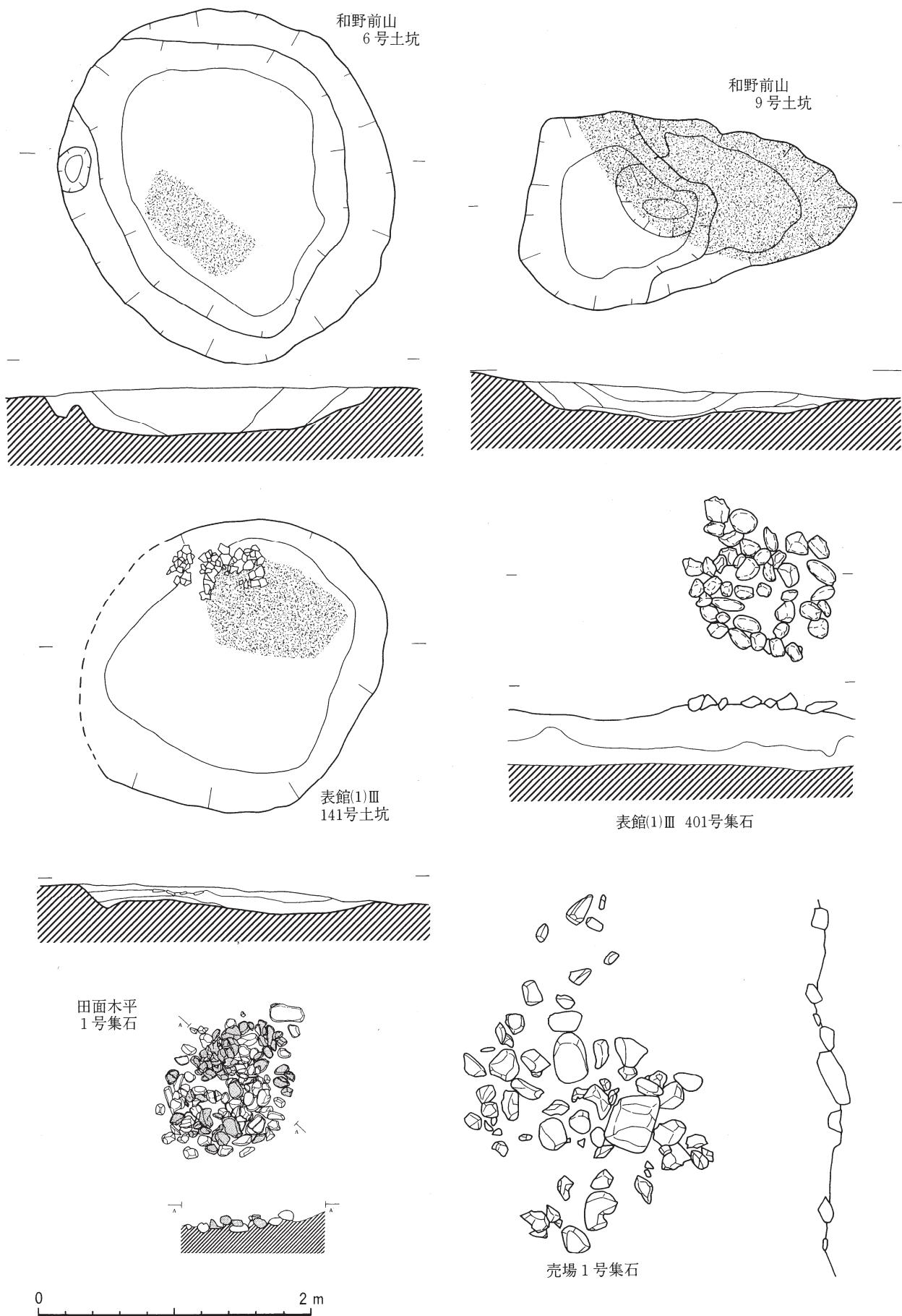


図6 土坑（ファイア・ピット）・集石